

ワークショップ2

障がい者の生活を支える 社会資源の有効活用

発表者 安藤 剛
(所属: 大月市社会福祉協議会)
アドバイザー 高橋 信幸

日本地域福祉研究所作成
複写禁

参加者状況

1. ワークショップ会場
大月市民会館・3階講堂

2. 参加者 35名

目 的

大月市において障がい者の生活を支える社会資源にはどのようなものがあり、それらを活用して何を、どのように実現していくか、あるいは、そのような社会資源を創り出すべきなのかを考える。

展開方法

1. 事例発表

- ①大月市社会福祉協議会の障がい者支援への取り組みと大月市の現状と課題
- ②当事者から見た生活課題
- ③障害者福祉施設から見た現状と課題

2. グループワーク

以下の課題について、5班に分かれてKJ法で検討した。

- ①何を実現したいのか
- ②そのための社会資源
- ③社会資源の活用方法



結果(1)

抽出された課題

1班	2班	3班	4班	5班
就労	相談窓口	ワーキング ハッピー	住民の理解	ボランティア
施設	家族への応 援	施設の充実	連携	バリアフリー
地域のサ ポーター	障がいの理 解	サークル活動	知恵	資源
お悩み相談	ボランティア	支	施設	仕事
移動	環境整備	足	働く場所	移動手段
		希望の施設	活動の場	生活日中の 支援

結果(2) 社会資源の有効活用

1班			
課題	社会資源	実現・活用の方法	不足している社会資源
就労	企業の協力 福祉センター 再利用	広報等を利用し理解を求める。 活動の場の整備 利用可能な場所を探す	資金 政治力 施設
施設	福祉センター サロン 短期入所 病院	活動の場の整備 地域との交流 受け入れの充実 病院への理解・充実	資金 政治力 施設
2班			
支援の充実	社協 福祉関係団体 行政	ネットワーク作り サービス実現可能の為の要望活動 実施の為の協働	事業所の不足 会社・企業の応援 各関係機関のネット ワークの強化
家族への応援	事業所 地域住民 関係機関	24時間対応のサービス 地域住民の応援 専門職の支援	24時間対応の事業所 地域住民の理解 相談支援

結果(2) 社会資源の有効活用

3班			
課題	社会資源	実現・活用の方法	不足している社会資源
人との関りが少なくなった	余裕がある人 福祉に携わる人 専門的な人	ワンコインボランティアの確立 地域との連携・協働 腕の見せどころ	ルールを作ろう!! みんなで見えていこう!! 掘り起こそう人材!!
行政と民間の連携	空き施設 使いたい施設 動く人 一緒に動く人	行政の理解 マンパワー	当事者のパワー
4班			
市との連携	当事者・保護者 福祉関係団体 社協	当事者・保護者と社協が一緒になり、 市へ訴える 応援体制の整備	市役所職員
住民の理解を得るためには	当事者・保護者 福祉関係者 地域住民	住民座談会の開催 障がい者と共に地域の行事に参加 広報活動	市役所職員

結果(2) 社会資源の有効活用

5班			
課題	社会資源	実現・活用の方法	不足している社会資源
ボランティアの養成・育成と活用	実践している人 学生 これからの人材	広報の活用 課外活動・大学で単位を出す 養成講座・空いている時間の調整	実践している人 若者ボランティア 福祉教育
バリアフリー	公共の施設のトイレ 心のバリアフリー	擬似体験・当事者の実体験報告 「明日は我が身」の意識 バリアフリーマップ作り 企業・行政へ呼びかけ	公共施設のバリアフリー化されたトイレ バリアフリー化情報 資金・福祉教育

④

お悩み相談

地域支援の初歩
気軽に相談

地域への声かけ
生活活動や市の学校先生へ

つどいの場所
*一日が楽しく暮らすために！
同じ趣味を持つ者か一堂に来る
相談の場
4名を目標に
10人を目指そう

⑤

移動

歩道の整備
車いす移動がスムーズに歩道の整備

障害者ための道路歩道の整備
交通手帳の整備(バス、タクシー)

バイマフリンで買い物出来るようにしておく。

ハート面の整備

②

施設

地域の医師会と連携
学習センター施設を遊歩道に活用(遊歩道)の設置2ヶ所以上!

福祉センターの有効活用。

スポーツ施設

参加できる行事を多く

施設数の充実

借りの一時預け所

ほい校に合わせた学校行事・月曜に便する休館日

おとこの場

家族を合わせた交流の機会

緊急時に対応可能な施設

意見が反映しやすい仕組み
毎月、こまめに
目録
医療・生活

健康者と乗るバス
スポーツ施設や道具

1 グループ

③

地域のサポーター

スキルアップ
増やす

サポーターの育成

技術者もたへる機会
(付随職員)人材

⑥

一人に喜ぶためのグループホーム

一人に喜ぶ場所
地域の人と
結びつける

①

就業

*自分の得意なことは何かに発表する

技能習得の場

社会参加の機会

就業支援等専門の協力

高齢者や国の時代のニーズ
への対応

*働く技術を生かす

障害者就労のための訓練施設

作業は一人ひとりで作業
できる環境
を設ける

実現したい事

そのための社会資源

実現活用する方法

① 就労

- ① 企業の協力 (就労先)
- ② 空校の活用
- ③ 福祉セーフティネット
- ④ 指導者の育成
- ⑤ 就労者の移動手段の確保
- ⑥ 空き地・空室などの有効利用
- ⑦ NPO 設立
- ⑧ 未利用になった機械・器具の調査
- ⑨ いろいろな技術や特技のある人からの技術継承
- ⑩ 引退した人材との交流 (仕事に補助的役割を担わせる)

- ①
- ② * 内校使用許可 (所有者と地元)
- ③ 利用回数と増やし別のことでは声を上げたい
- ④ 障害者に必要設備の有効利用
- ⑤ 老人が団体の世代間交流の場
- ⑥ 指導者の発掘
- ⑦ 市内の無料バスなどの運営
- ⑧ 公共交通機関の割引制度の確立
- ⑨ 移動支援のサービス提供
- ⑩ その他 行政への働きかけ (無償の活用)
- ⑪ 資金の調達の補助金活用
- ⑫ 市町村への依頼
- ⑬ 廃業した工場などへの依頼 (古い工場の活用)
- ⑭ 地域行政 無償格安物件を探る
- ⑮ 経営者の発掘
- ⑯ 乳産会社の情報
- ⑰ 空家・空地の地と交渉

② 施設

- ① 福祉センター
- ② 空き室を増やす空家の活用
- ③ 学校
- ④ 旧校舎の活用
- ⑤ 短期入所施設
- ⑥ 福祉施設
- ⑦ 大規模な中央病院の活用

- ① 行事企画実施
- ②
- ③ 地域資源の活用
- ④ 行政への働きかけ
- ⑤ 資金の調達
- ⑥ 既存施設の使用 (公共施設 無料開放)
- ⑦ 市町村への働きかけ
- ⑧ 病院との交渉
- ⑨ 福祉センターの活用
- ⑩ 福祉センターの活用
- ⑪ 福祉センターの活用
- ⑫ 福祉センターの活用
- ⑬ 福祉センターの活用
- ⑭ 福祉センターの活用
- ⑮ 福祉センターの活用
- ⑯ 福祉センターの活用
- ⑰ 福祉センターの活用
- ⑱ 福祉センターの活用
- ⑲ 福祉センターの活用
- ⑳ 福祉センターの活用
- ㉑ 福祉センターの活用
- ㉒ 福祉センターの活用
- ㉓ 福祉センターの活用
- ㉔ 福祉センターの活用
- ㉕ 福祉センターの活用
- ㉖ 福祉センターの活用
- ㉗ 福祉センターの活用
- ㉘ 福祉センターの活用
- ㉙ 福祉センターの活用
- ㉚ 福祉センターの活用
- ㉛ 福祉センターの活用
- ㉜ 福祉センターの活用
- ㉝ 福祉センターの活用
- ㉞ 福祉センターの活用
- ㉟ 福祉センターの活用
- ㊱ 福祉センターの活用
- ㊲ 福祉センターの活用
- ㊳ 福祉センターの活用
- ㊴ 福祉センターの活用
- ㊵ 福祉センターの活用
- ㊶ 福祉センターの活用
- ㊷ 福祉センターの活用
- ㊸ 福祉センターの活用
- ㊹ 福祉センターの活用
- ㊺ 福祉センターの活用

障害者の生活を支える社会資源の有効活用

《第1班》

課題	社会資源	実現活用の方法	共通事項	不足している社会資源
就労	企業の協力 閉校の再利用 福祉センター 指導者 秘重カ手段 空地・空家 NPO 不用器具等の活用	広報等を利用し理解を求める。 利用可能な場所を探し理解を求める。 実績を増やし有効活用をする。 人材の発掘・養成。シバ入材の活用。 公共機関の充実。秘書支援事業の実現。 利用可能な場所を探し理解を求める。 経営者の発掘。 廃業業者等へのお取引。	政治力の活用 資金の調達 地域の協力 行政の連携 地域の人の理解 法の整備 規則の改正	資金 政治力 施設
施設	福祉センター 空家 サロン 学校 短期入所 スポーツ施設 中央病院	行事企画の実施。 利用可能な場所を探し理解を求める。 地域ボランティアの育成と活用。 交流事業。 資金の調達と市内での受け入れ先の充実。 無料開放。 病院への理解と交渉。	同上	資金 政治力 施設

⑧ 移動手段

移動バス
車に乗らな
らぬ車の貸出し

⑥ 家族当事者の会

当事者の会を作る
本人の相談先
仲向意識の向上
家族同士が
つながる場
本人が相談できる相手
隣接当事者
の気持に寄り
添う場

① ボランティア

移動の支援
(ボランティア
バス)
補助者
(技術)
支援者
(日常)
ボランティア
養成
家族を
支える
近所
ボランティア
家族を
支える
ボランティア
生徒学生
の
向上
近隣の
相談先(機関)

⑩ 行政関係

施設関係外
役所内での
意識改革
市の広報に
障害者
の情報を
掲載
病院の充実
(医療)

② バリアフリー

街の
バリアフリー
化
トイレの整備
駅の
エレベーター
歩く所
(歩道)
トイレの
充実
安心して歩ける
歩道

5班

⑨ 教育

偏見を取り
教育

④ 仕事

副次枝
再利用
就きの場
(施設)
仕事
(生きがい)
就労
開拓
国・県市
からのた
くさんのお
金を出して
ほしい
(仕事)
就労移行
支援事業を
大月市に
ほしい
創業
資金
自主生産品
の開拓

⑤ 生活・日中の支援

登山式の
ごちそう
の提供
生活の場
親子と
一緒に
活動する
場
鍵を
預かる
一時預かり
障害者や
高齢者
の旅行に
乗って
泊らせる
サービス
夜間の
ヘルプ
サービス

③ 廃校の活用

空き屋(廃校
等)の
有効活用
学校の
利用
廃校の
活用
開拓
の
活用

⑦ 観光資源

大月駅
の
観光
資源
観光
資源
の
活用
観光
資源
の
活用
観光
資源
の
活用

実現 のヒント

そのための社会資源

実現・活用方法

1. ボランティアの 養成・育成と 活用

ボランティア
コーディネーター
民生
委員

既に実践して
いる人

小中学生
(部活動 体験)
長期休暇の
大学生(短)

学生

これから人材

主婦
定年退職
した方
子育てが
一段落した人
老人の方
参加の
機会を
持つ人
した人

広報で
つながり
広報利用
レポート

ボランティア
7/26-7/28
助成金

「ふれあい」
原稿
投稿

小・中学校の
課外活動
大学で単位
とれる

広報(募集
で活動報告
CATV
放映

養成講座
手話
教室
月1回
できる講座
新聞
配達の
声かけ

2. バリフリー

市民会館
HL
駅ビル

大工場

ショッピング
センター

公共施設

心のバリフリー
福祉講話
教育
明日は
我が身
誰が当事者か
和歌山
工場の
お互いに
交流

偽体験
当事者の
実体験
報告
当事者の意見
を聞き出す
(使いかたを
聞く)

当事者の行
動を市内
に広げる。
(7/27/28)
「我が身」
の危機
意識

マップ
作り
バリフリー
マップ
市内の
地図

行政
が3/31

企業へ
おたがけ

寄付
を7/28

障がい者の生活を支える社会資源の有効活用

第5班

課題	社会資源	実現・活用の方法	不足している社会資源
1. ボランティアの 養成・育成 と活用	<ul style="list-style-type: none"> ◦実践している人 ◦学生 ◦ここの人材 	<ul style="list-style-type: none"> ◦広報の活用 (活動の幅を 広げる) ◦課外活動 ◦大学で単位を出す ◦養成講座 ◦足りない時間調整 ◦新聞配達員の声かけ 	<ul style="list-style-type: none"> ◦実践している人 ◦若者のボランティア ◦福祉教育
2. バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ◦公共施設のトイレ ◦心のバリアフリー 	<ul style="list-style-type: none"> ◦疑似体験 ◦当事者の実体験報告 ◦「明日の自分」の意識 ↓ ◦バリアフリーマップ作り ↓ ◦企業・行政へ声かけ ◦寄付をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ◦公共施設の バリアフリー化に力を入れる ◦バリアフリー化情報 ◦資金 ◦福祉教育

考 察

- * 当事者・家族・関係団体の必死の努力にもかかわらず、残念ながら、大月市においては障がい者サービスは在宅も施設も大きく不足している現状にある。
- * そこでは、障がい者の生活を支えていくための地域住民の意識の有りようが大きな課題（壁）になっていると考察される。
- * その上で、社会資源を有効に活用して障がい者の生活を支えていくためには、多様な人々・組織との連携と協働が不可欠ではないか。

結論・今後の展望

- * これまで展開してきた「大月市障害者福祉推進会議」、今年4月に発足予定の「大月市障がい者福祉の会」という障がい者福祉を推し進める二つの仕組みを有効に生かしていくことが、今後の方向性として欠かすことができない。
- * 地域住民や地元行政との連携と協働を創りあげていくために、今回のフォーラムのような取組、機会を今後とも継続していく必要がある。
- * そうしたなかで、今回指摘された“不足している社会資源”を創出する努力も大切である。